

今月の

5冊



70歳からは超シンプル調理で「栄養がとれる」食事に変える！

塩野崎淳子＝著 若林秀隆＝監修
定価：1430円（本体1300円＋税10%）
発行：すばる舎

食が細くなったり、調理が億劫になったりと、高齢者の「低栄養」は隠れた健康問題だ。本書の著者は日々、在宅栄養指導のために地域を駆け回る在宅管理栄養士。そんな専門家だから知っているのが、栄養に関する「まずはこれだけ押さえておきたい」という知識と、料理が苦手でも実現可能なレシピのアイデア。それらが惜しみなく詰まっている本書は、高齢者の生活に関わり、「栄養」にも関与することを避けられない在宅ケア専門職に役立つはず。

不安の時代に、ケアを叫ぶ ポスト・コロナ時代の医療と介護にむけて

川口有美子、新城拓也＝著
定価：2420円（本体2200円＋税10%）
発行：青土社

不安の 時代に、 ケアを 叫ぶ

ポスト・コロナ時代の医療と介護にむけて

川口有美子、新城拓也

青土社

コロナ禍、医療・介護の現場は、これまでの常識や倫理観が揺さぶられる場に直面してきた。本書は、難病介助と在宅の緩和ケアのスペシャリストによる対話を掲載。「生きたい」を支える医療と介護をつくりあげるためには、実践の現場から何を考えることができるのか。ときに悩ましく、ときに生々しく語る2人に共通する思いはただ1つ。それでも、ケアを諦めない。

人を想い、地域を耕し、社会を変える人たちが 地域包括ケアを現場で語る

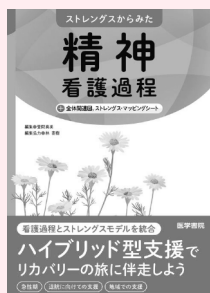
高橋紘士＝編著
定価：2970円（本体2700円＋税10%）
発行：木星舎



「地域包括ケア」は、どのような実践であるのか。そして、どのように発展してきたものなのか。本書は、それらを解き明かすべく、編著の高橋氏が各地の実践者で行ってきた座談会を収録している。「地域包括ケア」という概念がこれまで歩んできた足跡を辿り、その足跡の深さを確かめていく。前例を超えた取り組みを志す実践者にとって、必読の1冊だ。

ストレングスからみた 精神看護過程 ＋全体関連図、ストレングス・マッピングシート

萱間真美＝編 林直樹＝編集協力
定価：3960円（本体3600円＋税10%）
発行：医学書院



当事者の望む「自分のなりたい姿」を目標に、当事者の考えや経験などをストレングスとして活かす視点から看護過程を解説する待望の書。ストレングスモデル、BPSモデル（生物学的・心理学的・社会的情報）、セルフケア情報もあわせたアセスメントのポイント、ストレングス・マッピングシート、全体関連図、看護計画の立案と実施、評価まで指南する。

ケアの気づき メイヤロフの「ケア論」がひらく世界

西田絵美＝著
定価：1870円（本体1700円＋税10%）
発行：ゆみる出版



看護におけるケアリングとは何か。ケアリング教育の欠落が看護師のアイデンティティに大きく関わるとする著者が、メイヤロフとノディンズの著作を読み解き、ケアリングの本質を見出し、ケアリング教育の可能性を探る。看護の中核とされる「ケアリング」の意味と価値の気づきに至る思索の旅。